時短エクセル（第18回）

Excelの新「複数条件の場合分け」が使える

2019.06.03

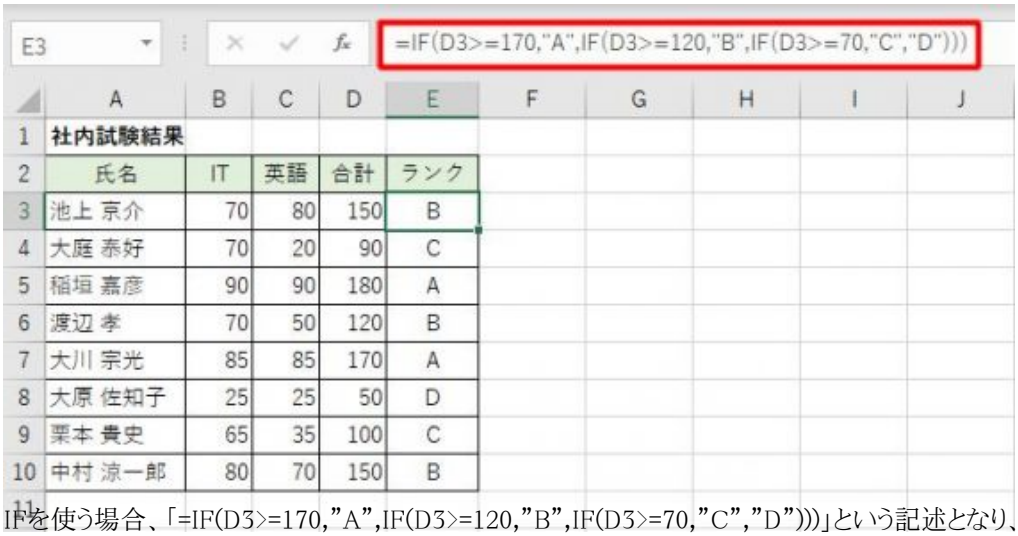
Excel 2019で、新しい関数がいくつか追加された。関数はこれまでにもたくさんあったが、とても全部は使いこなせない。しかし、新しく追加された関数のうち「IFS関数」と「SWITCH関数」は、非常に簡単な記述で利用できるので、ぜひ覚えておきたい。

※当記事では練習用のサンプルファイルがダウンロードできます（ページ下部）

得点に応じて「A」「B」「C」「D」のランク分けをする－これまでのIF関数編

これまでは、複数の条件で場合分けをする場合、「IF関数」をいくつも重ねて（入れ子にして）記述する必要があり、かなり複雑だった。閉じカッコが1つ少ないだけでもエラーになり、入れ子が多くなると間違いを見つけづらい。

例えば、「合計得点が170以上ならA、120以上ならB、70以上ならC、どれにも当てはまらない場合はD」という場合分けをしたいとする。従来のIF関数なら以下のようになる。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	社内試験結果									
2	氏名	IT	英語	合計	ランク					
3	池上 京介	70	80	150	B					
4	大庭 泰好	70	20	90	C					
5	稲垣 嘉彦	90	90	180	A					
6	渡辺 孝	70	50	120	B					
7	大川 宗光	85	85	170	A					
8	大原 佐知子	25	25	50	D					
9	栗本 貴史	65	35	100	C					
10	中村 涼一郎	80	70	150	B					
11										

IFを使う場合、「=IF(D3>=170,”A”,IF(D3>=120,”B”,IF(D3>=70,”C”,”D”)))」という記述となり、頭が混乱してしまう

IFS関数を使えば、条件と表示したい文字列を次々と並べて記述していくだけ… 続きを読む